



ICTの 活用事例

～曲にふさわしい表現に迫る音楽の授業をめざして～

中学1年生が「赤とんぼ」の教材で表現の工夫についてグループで意見交換しながら追求をしていました。曲の旋律のまとまりや強弱増減に着目して、実際に歌い、録音して振り返る活動を通してふさわしい表現に迫る活動です。録音するために、かつてはテープレコーダーが活躍していました。この時間は、タブレットで行われていました。中学生のタブレット操作の巧みさに驚きました。録音するためにタブレットで「赤とんぼ」の曲を自動演奏させてグループ全員で歌い、終わると再生して振り返っていました。

タブレットとは、辞典では「液晶ディスプレイなどの表示部分にタッチパネルを搭載し、指で操作する携帯情報端末の総称」とあります。コンピュータの入力装置の一つとして現在急速に普及してきました。

文科省では、「近年のグローバル化や急速な情報化の進展により、将来の変化を予測することが困難な時代を迎えようとしている。このような時代を迎えるにあたり、子供たち一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら作り出していくことが重要であり、子供たちには、何が重要かを主体的に考え、他者と協働しながら新たな価値の創造に挑むとともに、新たな問題の発見・解決に取り組んでいくことが求められる。（教育の情報化加速化プラン 平成28年7月29日文科科学大臣決定より）」というように ICT 活用と機器の整備に力を入れて進めています。

この音楽の授業の中では、タブレットがグループ学習の真ん中に置かれ、生徒が3～4人でそれを囲み、画面を見て歌い録音していました。歌い終わると画面にタッチして再生します。再生された歌声を繰り返し聞きながら、自分たちの歌声が目標に向かっているか、グループのみんなで振り返ります。録音と再生がこの授業のポイントとなるところですが、その操作は指や専用のペンでポンポンと画面に触れるだけで変わっていくのです。生徒たちは、タブレットの操作に何の抵抗感もありませんでした。そのために自分たちの歌声の振り返りに集中出来ていました。次期学習指導要領改訂で導入が検討されているアクティブラーニング（能動的な学習方法）では、このような授業スタイルもその一つではないか

タブレットで自動演奏・録音・再生



と思います。

また、I C T（情報通信技術）を活用した学習に対しても以下のように小学校統合に関する報告書に述べられています。上記中学校の授業研究を通してI C Tの活用によって生徒の主体性を掘り起して、考える学習へとつなげようとしています。このようにI C Tへの前向きな活用が実現出来る環境整備に努め、子どもたちの持っている力を一層伸ばしていきたいと思います。

情報化社会の進展に伴い、I C T（情報通信技術）の活用は次世代を担う子どもたちの育成に重要。I C Tを活用することで授業の効率化や情報活用能力を高め、子どもたちが様々な分野に興味を持って楽しく学べる環境を整備し、世界で活躍できる人材を育成すること。

（飯綱町小学校統合に関する報告書 平成28年1月より抜粋）

<牟礼東小1年と牟礼西小1年、2年合同遠足10月4日>

目的地はサンクゼール（昼食）、アップルミュージアム（見学）
アップルミュージアムでは世界のりんごの試食もしました。

～二学期の交流活動から～



<飯綱町4小学校5年生交流会>

10月13日三水第一小学校体育館



自作のカードで名刺交換



学校の紹介やゲームを通して交流会。来年は、それぞれの学校が最後の年を迎えます。その年の6年生となる皆さんの団結力高まる交流会でした。

＜三水地区4年生交流会＞

○11月4日

○三水第一小学校にて

○交流内容

- ・音楽室で演奏交流
- ・体育館でゲーム交流



音楽会で演奏した曲目をそれぞれで披露しました。演奏したり、聞き合ったりしたことで、お互いの成果を讃えながら、新たな自分たちの取り組みへの意欲につながりました。

今回の交流を会場校としてリードしたのが三水第一小学校の皆さんでした。参加した三水第二小学校の皆さんからは、「二小の皆さんが考えてくれたゲームはとても楽しかった。」「二小のみなさんが演奏してくれた風の『ガッツ』は音がそろってすごかったです。」などの感想が聞かれました。

触れ合う中から名前を覚え、親しい間柄へ



ドッジボール



人間知恵の輪



ジャンケン列車

～地域の皆様による支援で授業が支えられています～

三水第一小学校と三水第二小学校のクラブがそれぞれ11月10日に最終回となりました。クラブ活動にも地域の皆様が参加してくださいました。指導、あるいは見守りをたくさん賜りました。

クラブ活動への支援

【三水第二小料理クラブ】毎回だんごりの会のみなさんに講師でいただき、飯綱の郷土料理（たまごふうふう、むじな団子他）や地域素材を使った料理作りに取り組んでいました。この日はニラせんべいのニラの代わりに飯綱産のシナノゴールドを使ったりんごせんべいを作りました。りんごの焼ける甘い良いにおいが広がってとてもおいしくいただきました。



【三水第一小家庭科クラブ】感想

「クラブ見学の3年生に『すごい』と言ってもらえてうれしかったです。」「今日はむじな団子を作りました。おいしくできてよかったです。」との子どもたちの感想でした。写真は9月8日に取り組んだ「おやきづくり」風景



【三水第二小編み物クラブ】

編み物経験の全く無かった子どもたちが、地域講師の方に教えていただきながら自分で少しずつ編めるようになりました。

教科学習への 支援

牟礼東小学校では、今年から家庭科の時間に地域の皆さんも加わって学習を進めていました。針やミシンの扱いを学ぶ学習です。5年生の子どもからは、「先生が3人もいるので、困ったらすぐに聞くことができる」とか「針の扱いやミシンの扱いに慣れている人なので安心して教えてもらうことができる」といった率直な声もありました。また、指導する担当教科の先生も「扱っているものが針やミシンなので、注意がいつも以上に必要です。多くの目でみていただけるので安心です。」と支援への効果が実感できる取り組みになっています。



針やミシンを初めての人がほとんどですが、集中して自分の活動に臨んでいます。

糸が途中で足りなくなってしまうたり、最後の止めるところが難しかったり・・・

初めての経験で課題も生まれてきます。

そうしたときに、担当の先生の他にも教えてもらえる先生がいる状況は、子どもたちにとって安心して、集中して学習に向かえる環境になっています。

各小学校の教科学習やクラブ活動において、地域の方が入って職員と連携して子どもの指導に当たったり、見守ったりしている場面が見られます。

上記のように針やミシンを使う場面、火や包丁を使う場面等で地域の方からの支援を受けられることは、より安心な学習環境が生まれることになります。参加していただいた皆様は、それぞれ忙しい中ではありますが、子どもたちのためにと学習時間に間に合わせて来ていただいています。このような支援は、安心安全な学習環境とともに、子ども一人ひとりのやる気や意欲につながって学習の高まりが期待できます。

このように地域の方が寄り添い学校職員と連携する授業の環境は、これから子どもたちの成長を町全体で見守るという環境に少しずつ整えられて、より充実した子育て環境となっていくものと思います。

今後も、子どもたちの学習環境にとって、どのような支援のあり方がよいのか住民の皆様と考えながら進めていきたいと思っています。